



令和7年度 Principia I オリエンテーションにて発表しました！

令和7年4月17日(木)はまゆう会館にてPrincipia I オリエンテーションを実施しました。今号は1年生へ成果発表をした2年生から昨年度研究をとおして感じた事などを聞きました。

Q:研究のきっかけ

A:本研究は飼育していたハマダンゴムシがメロンパンだけを食べるようになったことから始まりました。飼育個体が偏食したため、身近な種とも比べ嗜好性について詳しく知りたいと思い研究を行いました。

「ワラジムシ亜目の分類によるコーヒーの嗜好の違い」 2年1組 木村 七海

A:私たちは「宇宙や科学」に興味があり、JAXAを選びました。実験では普段関わることのない「真空管」を自分たちで操作することができ、より「宇宙や科学」への関心が深まりいい経験になりました。

「軽量かつ曲がりにくいパネルの考案」 2年5組 足立 壮太

Q:大変だったところ

A:AIを活用する中で、膨大なデータから必要な情報を取捨選択するのに苦労しました。また、スクレイピング技術がうまく機能せず、データ取得のために試行錯誤を繰り返しました。

「コレキテ～着る服に迷ったら?～」 2年3組 竹川 奈穂

A:色々な選択肢の中で仮説を組み立てることが大変でした。仮説は研究の大きな指針となるものなので、丁寧に多角的に研究を見通して立てました。また、実験で外環境に左右されずに条件を揃えることが難しかったです。

「口腔再現モデルの考案と飴の溶け方についての実験的研究」 2年7組 成井 琴子

Q:工夫した点

A:発表面で工夫した点は、いきなり研究の要旨を話すのではなく身近な導入から入ることで理解しやすくなるようにしたこと。また、目線が1箇所集中しないように全体をグルッと1周するように目線を動かしました。

「紙と端末での記憶能力の差は?」 2年5組 中川 史悠

A:私たちが今回の研究で工夫したところは「課題からよく考えること」です。始めをきちんとやることで研究目的が立てやすくなるし、その後の実験や研究をまとめる際にもスムーズに進むので重要なことだと思います。

「頭に残る周知の仕方」 2年3組 森地 佑月

Q:楽しかったこと

A:楽しかったことは、メンバーで研究するための道具を作ったことです。POPや実際に料理をしました。さらにそれを実際に飾った時は達成感を味わえることができました。

「売り場づくりの作成における消費者行動の変化」 2年2組 尾身 由良

A:たと思いきや通りの結果が得られなくても、躊躇なく立ち止まり柔軟に考え直すという探究のプロセスが研究の楽しさであると思います。一人での研究をとおして、その自由さと発想の転換を存分に味わうことができました。

「英語ライティングにおける生成系AIの有用性」 2年7組 林 勇樹



Q:後輩へ一言

A:私はPrincipiaで研究するときは、仮説や目的をより明確にすることが一番大切だと思います。また、仮説と異なる結果になっても落ちこまず考察をしっかり考えてみてください！グループのみんなと協力して頑張ってください！

「土壌の性質による植物成長との関係性」 2年5組 吉本 祥子

A:「実験計画をもっと綿密に立てておけば良かった」これが私たちの最も反省していることです。研究には発想と実験計画のどちらも大切です。これを忘れず頑張ってください！！

「割れない陶器を作る」 2年6組 信田 颯士